

筑紫病院の平成元年

筑紫病院院長 朝長正道



激動の昭和が終わり、平和と協調の平成元年となりました。福岡大学筑紫病院が飛躍する新たな年と奇しくも重なり、その明るい前途を暗示してくれているように思えます。

筑紫病院の全職員がそれぞれの職責を黙々と全うしてきたことが、発展計画実行へとつながったものと確信しています。今回の短期的な発展計画と、われわれが抱いている将来構想について述べ、医学部および福岡大学病院の皆さんの理解と協力を頂き、ともに将来の発展を期したいと願っております。

二月竣工の予定です。一階はハウスキーピング部門と病理解剖室、二階には検体検査部門を既存施設から移設し、外来に設置予定の中央採血室と自動搬送器を結び、その他病棟の使用許可を頂き、四月から運用する予定です。このために現在五階にある医局、管理部門を近くの旧久具産婦人科に移転させます。新しい管理棟が完成するまで、医局、管理部門には大変な不便と負担をかけますが、皆喜んで苦勞を分かち合う気持ちを持って頂き、嬉しく思っています。第二の懸案である新管理棟は、大学本部と密に相談しつつ計画を立て、増床の許可とともに決定し、現在実施設計を進めております。

新管理棟が完成すれば、直ちに既存施設の改修に着手する予定です。外来部門の拡張、検査部、放射線部、薬剤部の拡充、MRI導入、手術部の整備、ICU、CCU、クリーン病室、個室など

昭和六十年七月、さまざまな困難を乗り越えて誕生した福岡大学筑紫病院でしたが、病院をとりまく状況は厳しく、大学本部、医学部のみならず、他学部にも心配をかける状態に陥りました。しかしそのような環境にもかかわらず、

福岡大学筑紫病院は、医学部の卒前、卒後教育の一翼を担う病院であり、運命共同体としての福岡大学の重要な機関です。私は、福岡大学の医学部、病院が他学部とも連携して、福岡都市圏に大きな福岡大学メディカルシステムを構成し、地域に貢献することが開かれた大学の使命であると考えています。

新管理棟は既存病棟の南側に七階建、約三、七〇〇平米で、既存病棟とは三階で連絡されます。四月着工、十月竣工の予定です。一階は病棟増設として、二階は増床することにして、二〇〇床を増床することの了承を頂き、直ちに行政へ申請して十一月には増床の許可を正式に頂きました。これ

の設置、整備、そして病棟の効率的運用を考えた改修と再編などです。これとともに診療組織の再編成、診療科増、管理運営組織の改革などが重要な課題であります。そのためには、大学外からの客観的な評価や示唆が必要になることもあろうかと考えております。すべての改修工事、組織の改革、再編を一年半後の来年秋には終わらせ、新しく再出発できることを願っております。そうなるまで二、三年で筑紫病院の財政基盤も好転するものと確信しています。地域の中核病院としての地位は揺るぎないものになるでしょう。

臨床検査医学講座の開設に当たって

臨床検査医学講座教授 濱崎直孝



ある高名な脳外科の教授が「ヒトの脳の仕組みを我々人間が科学的に追求しても、自ずと限界があり、完全に解明できるものではない」という意味のことをどこかで述べられていた。確かに、この考えは、医学の現状を考慮すると常識的で妥当な考えなのであろう。しかしながら、私はそのような立場に立ち、

できる筈のものであり、我々の思考や、あらゆる感情表現などですら、ヘモグロビンによる酸素運搬の仕組みや、筋肉収縮のメカニズムのように科学的に説明できて然るべきだと私は考えている。絶世の美人をみて憧れ、感動のシーンで涙するのを、例えば、ある神経細胞へのイオンの流入で説明され、該当する細胞へのイオンの流入を人工的に誘発することによって、醜女に憧れ、リクルート疑惑に感動するようなことが実現されたことはいくらでもあり得る。しかし、残念でも(?)、いつの日か、必ずそのような仕組みの解明はなされるもの

である。我々が現在修めている医学とは、そのような立場に立脚しているものである。昨年十月一日付で新設された臨床検査医学講座を担当するにあたって、このような当然の立場で臨床検査医学を追求してゆくと、ここに表明しておきたい。医学部卒業以来二〇年、専ら、赤血球という高度に分化した細胞の研究を行なってきた。この小さな細胞についてですら、我々が知り得ていることは、極く僅かにすぎないことを身をもって体験している。それ故に、このような立場で医学を論ずることが、いかに現実とのギャップが大きいかわかること、判っているつもりである。

院建築の耐用年数を短くし、二〇年、永くても二十五年で病院の新築が迫られる状況になっています。このような状況にいつでも対応できるように、大学として、医学部として、その方策を早急に検討して頂くようお願いしております。とりあえずは近くに、一〇、〇〇〇坪程度の土地を確保できればと考えております。

科学とは「いかにしたらべテランと初心者の区別なく、同じような仕事をできるようになるか」という手段を捜し出すこと」と言ってもよいと思うが、検査医学とは「どのよう検査法を開発したら研究修医でもベテラン医師と同じような診断ができるか」ということを目指してゆく領域である。そのためには、ヒトの体の仕組みを、正常、異常を問わず研究しなければならぬ。そして、それぞれの疾病の核心をついた特異的な検査法の開発に努めなければならない。現在でも、そのような検査法はいくつかある。しかし、沢山の疾病を診断するのに利用するには、あまりにも少なすぎる。このような特異的な検査法を一つでも増やす

ように努力するのが検査医学研究の基本なのである。決して現在普及している非特異的な一般状態しか判らない大部分の検査法に熟知して臨床医の相談にのったり、検査結果をもとにした診断のまねごとをする部門ではない。病人の診断は、本来、検査を依頼した医師が責任をもって行なうべきものであり、病院の検査部門が行なうべきものではない。病院の検査部門が行なっている業務は、現実を踏まえた一種の妥協の産物であり、相互信頼関係のうえでの検査の原理や限界を知ったうえで医師自身で検査すべきものである。現在は、ややもすると、学生や若い医師への検査結果の解釈などを臨床検査医学に期待する傾向があり、この部門で働いている我々自身が、そのように思い込んでいるふしがある。しかしながら、このことは、教育や

病院長業務としては重要なことである。検査医学研究の本質ではない。医学研究は応用科学であり、研究の成果が何らかの形で医学に活用されなければ全く価値がないものである。医学研究の徒は、スポーツで言えば、野球やラグビーやテニスなど、いわゆる「ゲーム」の選手に似た立場である。いかに基礎体力に富み、走力や遠投力があったとしても、それぞれがゲームを知り、各人の体力をそのゲームに利用することが出来なければ立派なプレイヤーとはいえない。これは逆に、基礎体力をつけることなしに、そのゲームのコツのみをいくら研究しても、立派な強いプレイヤーにはなれない。なかなか難しい命題である。長年専攻してきた生化学から臨床検査医学に変わったわけであるが、これは同じゲーム内でポジションが変わった程度だと考えている。

医学の発展は治療の進歩、人類の福祉を窮極の目的としており、そのためには人体の構造やはたらきを冷静に見つめなければならない。三好医師の発展は治療の進歩、人類の福祉を窮極の目的としており、そのためには人体の構造やはたらきを冷静に見つめなければならない。三好医師

来事は因果関係が明確に説明

る。それでおお、この姿勢をはっきりと基本路線として据えておかないと、医学研究、特に、我が臨床検査医学の進歩はないと考えている。

病院長業務としては重要なことである。検査医学研究の本質ではない。医学研究は応用科学であり、研究の成果が何らかの形で医学に活用されなければ全く価値がないものである。医学研究の徒は、スポーツで言えば、野球やラグビーやテニスなど、いわゆる「ゲーム」の選手に似た立場である。いかに基礎体力に富み、走力や遠投力があったとしても、それぞれがゲームを知り、各人の体力をそのゲームに利用することが出来なければ立派なプレイヤーとはいえない。これは逆に、基礎体力をつけることなしに、そのゲームのコツのみをいくら研究しても、立派な強いプレイヤーにはなれない。なかなか難しい命題である。長年専攻してきた生化学から臨床検査医学に変わったわけであるが、これは同じゲーム内でポジションが変わった程度だと考えている。

病院長業務としては重要なことである。検査医学研究の本質ではない。医学研究は応用科学であり、研究の成果が何らかの形で医学に活用されなければ全く価値がないものである。医学研究の徒は、スポーツで言えば、野球やラグビーやテニスなど、いわゆる「ゲーム」の選手に似た立場である。いかに基礎体力に富み、走力や遠投力があったとしても、それぞれがゲームを知り、各人の体力をそのゲームに利用することが出来なければ立派なプレイヤーとはいえない。これは逆に、基礎体力をつけることなしに、そのゲームのコツのみをいくら研究しても、立派な強いプレイヤーにはなれない。なかなか難しい命題である。長年専攻してきた生化学から臨床検査医学に変わったわけであるが、これは同じゲーム内でポジションが変わった程度だと考えている。



第十五回 医学部慰霊祭



第十五回福岡大学医学部解剖慰霊祭は、遺族および来賓の方々、それに、本学教職員や学生など約五〇〇名が参加し、昭和六十三年十月二十九日午後二時から福岡斎場において厳粛に執り行われた。今回祀られた霊位は、学生志にそうよう勉学、研究、さるに診察に一層の精進をしまし、と新たな誓いを披瀝された。

福岡大学医学会総会・例会の報告

- 日時 昭和63年6月15日(水) 午後四時半より
- 場所 福岡大学医学部臨床大講堂
- 議事
- 1、報告事項
 - 2、役員改選
 - 3、62年度会計報告ならびに63年度予算(案)
 - 4、その他
- 第19回例会
- 講演
- 座長 三好萬佐行 教授
- 1、「疾病と家族 ―神経性無食欲症を中心として―」 精神医学 牛島 定信 教授
 - 2、「脳梗塞の病態」 内科学第一 西丸 雄也 教授

教室紹介

福岡大学脳神経外科

当教室は、朝長正道教授、麻酔科に御迷惑をおかけして、

以下、助教一名、講師一名、助手三名、医員三名、臨床大学院六名、研修医二名から成る脳・神経疾患の外科治療を担当している。

臨床面では、西丸雄也教授率いる神経内科グループ、満留昭久教授率いる小児神経グループ、後藤勝弥助教率いる神経経路線グループに支えられ、治療にあたり緊密な交流を行っている。

日常活動は朝八時の病棟カンファレンスに始まる。火・木曜日が手術日であるが、他科に比べ緊急手術の頻度が高く、手術場ナース

ループ、脳腫瘍の治療グループ、小児神経疾患グループ、脳卒中・凝固線溶グループ、手術機器開発グループに分けられる。大学院生は、薬理・生化学・病理学教室で指導を受けているが、原則として、本人の希望を尊重している。月一回の割で研究会を開いている。

教授の方針で、学生の教育指導には教室員全員が全力を注いでいる。

教室の催しとしては、春は新入局歓迎医局旅行、朝長杯ゴルフコンペ、九州地区野球大会、秋は佐賀医科大学の対抗ゴルフコンペ、年末の忘年会があり、若手には芸達者も多く、下手な芝居を見るより価値があると思われる。

(文責・岡)

教室紹介

福岡大学生化学第二

一、現在の人員構成および最近の人事は以下の通りです。池原征夫教授、織田公光助教、三角佳生助手、藤原俊幸助手、大久保研之助手、林結香里教育技術職員、大久保久美子研究生。浜崎助教が十月一日付で本学医学部臨床検査医学講座教授に昇格(現在この講座が研究室のため、助手一名、研究生三名とともに同居中。廣瀬伸一研究生が学位取得後、八月より米国クリブランドへ留学。

二、研究内容

分泌蛋白質および形質膜蛋白質の合成と細胞内輸送過程における修飾について研究しています。これら

の蛋白質は細胞内に滞留する他の蛋白質と異なり、粗面小胞体で合成され、ゴルジ装置、分泌顆粒を經由して細胞表面に輸送される特徴をもっています。そこで、その細胞内輸送のメカニズム、および輸送過程で起る種々の蛋白質修飾のメカニズムを解明することが、私たちの興味の対象です。

研究の進め方としては次のような方法を用いています。①まず蛋白質の修飾状態をみるために、放射性前駆物質を目的とする蛋白質に取り込ませ、生合成・輸送の全過程を追跡し、分子種の変化(ペプチド切断、糖鎖合成、硫酸化など)を

本人にみられた「順法精神」、「秩序の理路整然さ」など、私の生涯忘れられない所が沢山あります。

最後に私は日本で覚えた責任

海外・国際学会研究発表

(発表者名: ①題目 ②学会名 ③開催地 ④年月日)

Okumura, M. (内科学第一): ①Treatment of the complications of hepatic cirrhosis. ②Japan-China Conference on Liver Diseases. ③Peking and Xian. ④63. 5. 21, 5. 27.

Asano, T. and Katakabe, K. (内科学第一): ①Prehepatic insulin production rate: Comparative responses to glucose, glucagon and DBcAMP using kinetic analysis of peripheral C-peptide behavior. ②The 3rd International Symposium on Treatment of Diabetes Mellitus. ③Nagoya ④63. 7. 13~7. 16.

Sasaki, J., Funakoshi, M., Arakawa, K. (内科学第二): ①Proline rich protein: An apolipoprotein and an acute phase reactant. ②The 79th Annual Meeting of the American Society for Biochemistry and Molecular Biology. ③Las Vegas, U. S. A. ④63. 5. 1~5. 5.

Ishibashi, M., Yoshida, M., Aritomi, T., Miyahara, T., Seki, M., Hirose, T. (内科学第二): ①E. Coli endotoxin changes pulmonary microvascular sieving properties in anesthetized dogs. ②ALA & ATS, Annual Meeting. ③Las Vegas, U. S. A. ④63. 5. 1~5. 5.

Ideishi, M. (内科学第二): ①Angiotensin converting activity of tissue kallikrein. ②12th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension. ③Kyoto, Japan. ④63. 5. 21.

Kinoshita, A. (内科学第二): ①What types of Hypertensives respond better to mild exercise therapy? ②12th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension. ③Kyoto, Japan. ④63. 5. 23.

Ikedo, M. et al (内科学第二): ①Responses of active and inactive renin to graded exercise. ②12th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension. ③Kyoto, Japan. ④63. 5. 27.

Sasaki, J., Arakawa, K. (内科学第二): ①Beneficial effect of ACE inhibitors (Captopril, Enalapril) on lipoprotein metabolism in mild essential hypertensives. ②8th International Symposium on Atherosclerosis. ③Florence, Italy. ④63. 10. 7~10. 8.

Sasaki, J., Saku, K., Koga, T., Uzawa, H., Arakawa, K. (内科学第二): ①Comparison of between α_1 -blocker and β -blocker on serum lipids and apolipoproteins in

patients with essential hypertension. ②8th International Symposium on Atherosclerosis. ③Rome, Italy. ④63. 10. 9~10. 13.

Kusuda, M., Takada, Y., Saku, K., Sasaki, J., Arakawa, K. (内科学第二): ①Evidence that proline-rich protein is synthesized in the liver. ②8th International Symposium on Atherosclerosis. ③Rome, Italy. ④63. 10. 9~10. 13.

Saku, K., Sasaki, J., Takada, Y., Kusuda, M., Arakawa, K. (内科学第二): ①Probuco lowers apolipoprotein AI synthesis in rabbits. ②8th International Symposium on Atherosclerosis. ③Rome, Italy. ④63. 10. 9~10. 13.

Watanabe, K., Yoshida, M. (内科学第二), Jaffey E A (Cornell University Medical College): ①Endotoxin stimulates PGI₂ production by human umbilical vein endothelial cell in culture. ②International Symposium of Airway Hypereactivities. ③Sendai, Japan. ④63. 10. 26~10. 28.

Nishizono, H. (精神医学): ①Chronological changes of identity of psychiatrist in Japan. ②WPA Regional Symposium. ③Sydney, Australia. ④63. 5. 1~5. 3.

Nishizono, H. (精神医学): ①Participation in discussion. ②World Association on Medical Education by World Federation for Medical Education. ③Edinburgh, England. ④63. 8. 8~8. 12.

Nishizono, H. (精神医学): ①Psychotherapy in general. Psychoanalysis. Education and training of psychotherapy. ②WHO Workshop on Psychotherapy and Behavior Modification. ③Harbin, China. ④63. 9. 20~9. 27.

Nibu, K. et al. (小児科学): ①Human parvovirus B-19 infection in congenital hemolytic anemia, glucose-6-phosphate dehydrogenase deficiency and hereditary spherocytosis. ②XXII Congress of the International Society of Hematology. ③Milano, Italy. ④63. 8. 28~9. 2.

Ichiki, S., Oda, T. (小児科学): ①Severe Osteoporosis due to deficiency in estrogen secretion in a case of juvenile rheumatoid arthritis with retarded puberty. ②The 6th SEAPAL Congress of Rheumatology. ③Tokyo. ④63. 9. 5~9. 10.

Toshitani, A. (皮膚科学): ①A case of umbilical polyp. ②8th Regional Conference of Dermatology. (Asian-Australian) ③Bali. ④63. 6. 16~6. 20.

Hayashi, N. (皮膚科学): ①Candidiasis combined with malignant lymphoma (ATL). ②X Congress of the International Society for Human and Animal Mycology. ③Barcelona, Spain. ④63. 6. 27~7. 1.

Shirakusa, T. (外科学第二): ①The evaluation of surgical treatment of primary lung cancer in patients over 80 years of age. (誌上发表) ②Vth World Conference on Lung Cancer. ③Interlaken, Switzerland. ④63. 8. 28~9. 1.

Hirabayashi, M. (外科学第二): ①The significance of cervical Lymphadenectomy in a operation for carcinoma of the thoracic Esophagus. ②The 8th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology. The 5th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy. ③Seoul, Korea. ④63. 10. 9~10. 13.

Naito, H. (外科学第二): ①Thyroidolymphography with activated carbon particle (CH44) and lipiodol for cervical lymph node dissection in the patient with thoracic esophageal cancer. ②The 8th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology. The 5th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy. ③Seoul, Korea. ④63. 10. 9~10. 13.

Inuzuka, S. (外科学第二): ①Changes of the serum testosterone level in the patients with carcinoma of the stomach before, during, and after the gastrectomy. ②XXVI World congress of the International College of Surgeons. ③Mirano, Italy. ④63. 7. 3~7. 9.

Nakamura, A. 他 7 名 (整形外科): ①Preoperative computer simulation in total knee replacement. ②The 6th Seapal Congress of Rheumatology. ③Tokyo. ④63. 9. 5~9. 10.

Hayashi, H. (眼科学): ①Localization of transforming growth factor-beta (TGF-Beta) within the retina and choroid following argon-laser photocoagulation (ALP). ②The Association for Research in Vision and Ophthalmology. (ARVO) ③Florida, U. S. A. ④63. 5. 4.

Kato, H. (眼科学): ①Experimental traction retinal detachment (TRD) after intravitreal injection of combination of platelet-factor-Beta (TGF-b) and fibronectin (FN). ②The Association for Research in Vision and Ophthalmology. (ARVO) ③Florida, U. S. A. ④65. 5. 3.

Ohira, A. (眼科学): ①Effect of emulsified silicone oil (四頁へつづく)

